

中東問題を観る眼

朝日カルチャーセンター・新宿教室

若林 啓史

講座の全体像

第1回 中東の人は全員イスラーム教徒？ 中東の少数宗教 その1：ゾロアスター教

第2回 中東の人は全員イスラーム教徒？ 中東の少数宗教 その2：ユダヤ教

第3回 中東の人は全員イスラーム教徒？ 中東の少数宗教 その3：東方キリスト教

第4回 イスラームは偏狭な宗教？ 寛容な宗教？ 中東の多数宗教・イスラーム

第5回 中東は部族社会？ 中東の社会構造 その1

第6回 中東は宗派で分断されている？ 中東の社会構造 その2

第7回 中東は男尊女卑？ 中東とジェンダー

第8回 中東の国々はどこも産油国？ 石油問題と中東観のかたより

第9回 中東に民主主義は根付くのか？ 中東民衆の政治参加

第10回 イスラエルと湾岸アラブ諸国は手を結ぶのか？ 中東の新たな対立構造

第11回 日本外交における中東の重みは？ 中東外交の黄昏

第12回 なぜ日本の中東論文は英語で書かれるのか？ 戦後日本の中東研究

【中東地図】



第1回 中東の人は全員イスラーム教徒？ 中東の少数宗教：

その1 ゾロアスター教

2023年1月26日



写真 イランの「ゾロアスター文化3000年祭」 テヘランにて2003年12月11日撮影
ユネスコは、タジキスタン政府からの要請に応じ、2002-2003年に開催される「ゾロアスター文化3000年祭」への協賛を決定した。ゾロアスター教の教義が、聖典『アヴェスタ』に編纂されてから概ね3000年となった機会に、イランなど、ゾロアスター教徒の分布する国々で祝賀行事が執り行われた

1 中東の少数宗教

- 多くの人は、「中東地域では、外国出身者以外、全員がイスラーム教徒である」と想像しています
- しかし、中東には、イエスの時代から連続しているキリスト教共同体や、旧約聖書の時代に遡るユダヤ教共同体、古代ペルシア帝国の時代から続くゾロアスター教共同体など、人数は少ないですが、歴史上重要な役割を担ってきた少数宗教が存在しています
- このような少数宗教に眼を向け、中東の多様性・複雑性を認識しましょう
- 中東の多数宗教であるイスラームは、支配領域の他宗教との関係を、どのように構築してきたのでしょうか？
- 中東の少数宗教が、今日まで存続してきた社会的環境について考えます
- 今回は、イランなどで信仰が守られている、ゾロアスター教を取り上げます。善悪二元論、火を神聖視する儀礼、鳥葬の風習などを解説します



写真 テヘラン市中心部のゾロアスター教拝火殿 2015年9月5日撮影

テヘランの「アードリヤーン拝火殿」は、比較的新しく、カージャール朝ペルシア帝国末期の1917年に開設と伝えられる。建物上部に掲げられたレリーフには、古代から受け継がれたゾロアスター教のシンボルが表現されている。「アードリヤーン」とは、信仰に用いる火を3等級に区別し、その2番目を用いる拝火殿である

2 イスラームと他の一神教

- イスラームにおいては、他宗教を、唯一神を崇拝する宗教と、多神教に分けています
- イスラームは、多神教に対しては妥協を許しませんが、唯一神を崇拝する宗教に対しては、アッラーのみを崇拝するイスラームと共通の信仰であると、親和性を示します
- 地域の先行宗教であるユダヤ教とキリスト教に関し、新旧約聖書の多くの預言者がクルアーンに登場するように、イスラームは、これらを共通の神を信じる宗教と理解します
- つまり、イスラームは、ユダヤ教とキリスト教を包摂する宗教と自らを位置づけています。キリスト教がユダヤ教を先行宗教として包摂する関係にあるため、これら三つの一神教は、イスラームから見れば、三重の入れ子構造を形成しています
- ただし、イスラームの教義からは、預言者ムハンマドが、新旧約聖書に登場する全ての預言者の最後であり、アッラーから完全な啓示を受けた「預言者の封印」とされます
- イスラームは、ユダヤ教とキリスト教の教えをそのまま受け容れるのではなく、先行宗教はアッラーの啓示を正しく理解しているとは限らないとして、修正する立場を採ります
- もちろん、キリスト教などの側は、イスラームのこのような教義を認めてはいません



写真 テヘランの拝火殿内部

アードリヤーン拝火殿の内部は、異教徒の見学が認められている。ただし、毛髪を不浄とみなすゾロアスター教の教えに従い、帽子またはスカーフを借りて着用しなければならない。建物内部は、信徒が儀式に参集する場所と、壁に囲まれた聖火を祀る場所に分けられている

3 イスラームと「啓典の民」

- イスラーム成立直後、信徒共同体には困難もありました。しかし、預言者ムハンマドの存命中にアラビア半島のメッカを勢力下に収め、「正統カリフ」の時代には、さらなる領域の拡大を始めました
- そこで、イスラーム初期の理論家は、世界をイスラームの支配に服属した「イスラーム空間」と、その外側の「闘争空間」に区別しました
- そして、「イスラーム空間」に入った異教徒については、彼らが多神教徒なのか、キリスト教などの「一神教徒」なのかで処遇を別にししました
- 「イスラーム空間」に入った多神教徒は、多神教を放棄することが求められました
- 一方、「一神教徒」は、それぞれ新旧約聖書など、神から与えられた「啓典」を持つことから、「啓典の民」として特別の扱いを受けることになりました
- つまり、イスラームの支配下に入った「啓典の民」は、その支配を受け容れ、貢納などの条件に従うことで、元々の信仰を続けることが許されました。また、教会やシナゴーグなどの宗教施設を維持し、それまでの宗教儀式を行うことが認められました
- ゾロアスター教徒も「啓典の民」扱いされるかについては、議論が生じました



写真 神殿の聖火に奉仕

神の象徴として神殿で火を祀る風習は、ゾロアスター教そのものの成立より後である、アケメネス朝ペルシア帝国後期に始まったとされる。燃料には、ザクロ、アンズ、ピスタチオの樹皮を除いた薪が用いられる。金属製の炉は、インドに移住したゾロアスター教徒が15世紀に使い始め、19世紀にイランに導入された

4 イスラームとゾロアスター教

- イスラームを旗印とするアラブ軍団は、7世紀に東ローマ帝国からシリア・エジプトを奪いました。同時にアラブ軍団は、ササン朝ペルシアに攻め込み、これを滅亡させました
- ゾロアスター教徒は祖国を失い、イスラームの支配下に入りました
- アラビア語文献で、ゾロアスター教徒は「マジュース」の名で言及されます
- クルアーンには、「マジュース」は登場しますが、ゾロアスター教を一神教と多神教のどちらに分類すべきなのかについて、解釈が分かれています
- アラブ軍団によるペルシア統治の初期において、ササン朝の官僚組織は征服者アラブに協力しました。ゾロアスター教徒の強制的な大量改宗は、知られていません
- つまり、イスラーム法学者の議論とは別に、イスラーム帝国の実態において、ゾロアスター教徒は早い段階から、事実上「啓典の民」の扱いを受けてきたと考えられます
- イスラーム法学者の中には、ゾロアスター教の聖典『アヴェスタ』が、神から下された「啓典」に値するのか、疑問を呈する者もありました。また、ゾロアスター教の善悪二元論が、2つの神を認めていると非難する説がありました。これらへの異論もあります
- 現在のイランの憲法では、ゾロアスター教は公認の少数宗教の一つと明記されています



写真　　イスファハンに残るササン朝ペルシア時代の拝火殿

イスファハン郊外の岩山の上には、拝火殿の遺跡が残っている。ササン朝滅亡の際、ペルシアの拝火殿は、多くが破壊されたり、モスクに転用されたりした。ゾロアスター教徒は、神殿の火を絶やさぬよう、種火を隠した。現在、イランのヤズドにある拝火殿で燃える火は、西暦470年から燃え続ける、不滅の炎と伝えられる

5 ゾロアスター教の起こり

- 古代の印欧諸民族は、太陽神を信仰していたと考えられており、古代ペルシアの多神教においても、太陽神ミトラが主神として崇められました
- ゾロアスターは、紀元前6-7世紀の人という説が早くから唱えられ、紀元前11世紀以前に遡らせる説もありますが、いずれも確証はありません
- ゾロアスターは、ペルシアの多神教を改革し、善や光明、叡知を体現するアフラ・マズダーへの信仰を提唱しました。アフラ・マズダー信仰には、太陽神崇拝の要素が引き継がれます。ゾロアスターは、この世を善と悪、ないしは光と闇の闘争と説きました
- ゾロアスターの改革により、善悪二元論的な世界観が提唱され、次の時代の一神教の発生に道を開きました。ゾロアスター自身は、旧来の神々の存在を否定はしなかったといわれます
- ゾロアスターは、ピタゴラスに秘教を伝授したなど、様々な伝説の主となっています
- 聖典『アヴェスタ』の原型は、アレキサンダー大王のペルシア征服の際、失われたという伝承があります。現存する『アヴェスタ』は、ササン朝ペルシア時代の編集などを経た、元の聖典の一部と考えられています



写真 イラン・ヤズドの「沈黙の塔」

「沈黙の塔」とは、ゾロアスター教徒が死者を鳥葬に付すための施設である。ゾロアスター教では、火・水・土・風の4元素は神聖とされ、埋葬によって大地を汚すことは許されなかった。イランのヤズドには、古くから「沈黙の塔」の記録がある。円筒形の塔は、19世紀、インドのゾロアスター教徒の支援により築かれた施設で、1970年代初めまで使用されていた

6 ゾロアスター教のインドへの拡大

- イスラーム帝国内のゾロアスター教徒は、8世紀後半に入るとイスラームへの改宗が目立つようになりました。
- 信仰を守ったゾロアスター教徒の一部は、936年（一説には785年）頃よりインド西部のグジャラート地方へ移住を開始しました
- 2017年の統計では、イランとインドにそれぞれ7万人弱のゾロアスター教徒が存在します。近年では、生命科学を活用し、イランとインドのゾロアスター教徒は、共通の先祖を有するとの証明も現れました
- インドのゾロアスター教徒は、後に「パルシー」（ペルシア人）と呼ばれるようになりました。1600年にイギリスが東インド会社を設立すると、パルシーはこれに結びついて繁栄に向かいました。18世紀以降、パルシーはインド・中国間の貿易を担い、19世紀にはインドの有産階級を形成しました。タタ財閥の創業者もパルシーです
- 19世紀、パルシーはペルシア帝国のゾロアスター教徒に眼を向け、後者の社会的地位の向上を目指す慈善事業を組織しました
- イランとインドのゾロアスター教には、若干の教義や慣習の違いはありますが、基本的に両者の関係は良好で、イランの拝火殿などは、パルシーの支援で改修されました



写真 アゼルバイジャン・バクーの拝火殿

ゾロアスター教の拝火殿は、現在のイランのみならず、かつてペルシア帝国の版図に属した地域に存在した。また、10世紀にインドに移住したゾロアスター教徒によって、旧帝国の外にも建設された。アゼルバイジャンの首都バクー近郊には、1745年建築の銘文を持つ拝火殿が残っている。1969年まで、自然に噴出する天然ガスによる「不滅の炎」があった

7 今日のゾロアスター教

- 聖火使用、神官制度、鳥葬の風習は、ゾロアスター教成立より後れて始まりました
- 拝火殿に火を守る伝統は、今日まで続いています。ただし、しばしば誤解されるように、ゾロアスター教徒は火そのものを崇拝しているのではなく、聖火を象徴に用いて、アフラ・マズダーを信仰していると説明されます
- 古代、「マギ」と呼ばれた神官は、アケメネス朝時代にゾロアスター教の教義解釈や儀式の執行を独占するようになりました。ササン朝では、神官の階級など制度が整い、神官は世襲とされました。その後、名称などは変わりましたが、神官制度は続いています
- 鳥葬は、イランでは1960年代政府から禁止され、1970年代初めには消滅しました。現在、イランのゾロアスター教徒は、土葬を行っています。インドのゾロアスター教徒は、鳥葬を続けています。しかし、拡大する市街地が「沈黙の塔」に接近、あるいは人肉に残留した鎮痛剤成分に、猛禽が中毒を起こすなどの理由で、今後が危ぶまれています
- ゾロアスター教の祝祭でもある冬至や春分などの祭りは、イランのイスラーム教徒などに受け継がれています。現在のイランの多数宗教はイスラームですが、ゾロアスター教の栄えた古代ペルシア時代は、イランのナショナリズムの核として記憶されています
- ゾロアスター教では、婚姻に際し、新婦は新郎の宗教に従うとされています。そのため、ゾロアスター教徒の女性が他の宗教の男性と結婚すると、妻や子はゾロアスター教徒ではなくなります。この慣習により、ゾロアスター教徒の人口は減少傾向にあります